

# 地場企業の経営動向調査

(平成19年度 第4・四半期)

平成20年 5月 1日

 福岡商工会議所

事業推進部 経済振興グループ

TEL 092-441-1118

## 調査目的

福岡市内地場企業（一部福岡市近郊を含む）の景況及び経営動向を把握すると同時に、これらの情報を企業へ提供し、企業経営の参考に資するものである。

## 調査対象

当所会員企業を対象とし1,500社を任意抽出したもので、対象企業の内訳は中小企業 1,425社（構成比率95.0%）、大企業75社（構成比率5.0%）により構成されている。

回答した企業数は645社、回答率43.0%となっており、回答企業の内訳は、中小企業601社（構成比率93.2%）、大企業44社（構成比率6.8%）となっている。

中小企業の範囲は中小企業基本法の定義に基づく。

## 調査要領

四半期毎にアンケート用紙を郵送、前年同期比の回答を求めるもので、今回は平成20年1～3月期の実績、及び平成20年4～6月期の予想について、平成20年3月末時点で調査した。

## 調査内容

DI値を集計（DI=「良いとする回答割合」-「悪いとする回答割合」）

DI・・・ Diffusion Index（景気動向指数）の略

### 景気・経営動向調査

- 1．自社・業界の景況
- 2．生産額、売上額、完成工事高
- 3．原材料・製（商）品仕入価格
- 4．受注価格、販売価格
- 5．製（商）品在庫
- 6．営業利益
- 7．売掛期間
- 8．資金繰り
- 9．100万円以上の新規借入

平成19年度 第4・四半期

調査対象企業数及び回収結果

規模別	対象数	回答数	回答率	回答結果の構成比
全業種	1,500	645	43.0%	
中小企業	1,425	601	42.2%	93.2%
大企業	75	44	58.7%	6.8%

業種別	対象数	回答数	回答率	回答結果の構成比
全業種	1,500	645	43.0%	
建設業	314	151	48.1%	23.4%
土木建設業	114	55	48.2%	8.5%
建設付帯工事業	79	37	46.8%	5.7%
電気・管工事業	121	44	36.4%	6.8%
製造業	221	102	46.2%	15.8%
食料品製造業	46	24	52.2%	3.7%
繊維製品製造業	13	1	7.7%	0.2%
建材・木・紙製品製造業	7	4	57.1%	0.6%
印刷・製本業	44	20	45.5%	3.1%
窯業・土石製品製造業	8	5	62.5%	3.3%
金属製品製造業	23	14	60.9%	2.2%
一般機械器具製造業	20	9	45.0%	1.4%
電気機械器具製造業	24	14	58.3%	2.2%
その他製造業	36	11	30.6%	1.7%
卸売業	333	148	44.4%	22.9%
食料品卸売業	63	17	27.0%	2.6%
繊維製品卸売業	65	19	29.2%	2.9%
建材・住宅機器卸売業	60	30	50.0%	4.7%
紙・文具・事務機卸売業	6	3	50.0%	0.5%
金属・鋼材卸売業	2	1	50.0%	0.2%
一般機械器具卸売業	32	20	62.5%	3.1%
電気機械器具卸売業	13	10	76.9%	1.6%
石油・化学製品卸売業	12	7	58.3%	1.1%
ゴム・皮革製品卸売業	2	2	100.0%	0.3%
その他卸売業	78	37	47.4%	5.7%
小売業	210	79	37.6%	12.3%
食料品小売業	44	10	22.7%	1.6%
衣料品・身の回り品卸売業	45	14	31.1%	2.2%
石油・化学製品小売業	25	9	36.0%	1.4%
車両運搬具小売業	14	5	35.7%	0.8%
家電・厨房器具小売業	10	5	50.0%	0.8%
百貨店・セルフ店	11	3	27.3%	0.5%
その他小売業	61	25	41.0%	3.9%
運輸・倉庫業	62	31	50.0%	4.8%
旅客運送業	16	10	62.5%	1.6%
貨物運送・倉庫業	46	20	43.5%	3.1%
サービス業	360	134	37.2%	20.8%
情報処理サービス業	51	18	35.3%	3.6%
その他事務所サービス業	216	80	37.0%	12.4%
ホテル・旅館・飲食業	55	21	38.2%	3.3%
その他の個人サービス業	38	17	44.7%	2.6%

## 「 福商・経営動向調査 」 調査結果

### 景況概況 (DI 値の動き)

1. 自社業況は、今期 35.8 となり、前期との比較ではマイナス 6.2 ポイントと 5 期連続での悪化となった。  
業種別に対前期比をみると、全産業中、製造業がプラス 5.9 ポイント(前期 DI 33.3)と 3 期ぶりに、サービス業がプラス 3.3 ポイント(同 20.5)と 4 期ぶりに改善したものの、小売業マイナス 15.5 ポイント(前期 DI 35.2)、建設業マイナス 12.0 ポイント(同 32.3)、卸売業マイナス 11.0 ポイント(同 25.4)、運輸・倉庫業マイナス 8.0 ポイント(同 53.3)の悪化となった。  
特に、小売業では、仕入価格の上昇は続いているものの、販売価格を上げられず、収益環境が悪化する中、消費マインドの低下もあり、全産業中最もマイナス幅が拡大(マイナス 15.5 ポイント、DI 値 50.7)した。  
次四半期(H20 年 4~6 月)の全業種予測 DI 値は 33.8(今期比プラス 2.0 ポイント)となっており、改善が予測されている。
2. 業界の景気動向は、今期 59.2 と前期との比較ではマイナス 6.3 ポイントと 5 期連続して悪化した。  
次四半期については 52.5 とプラス 6.7 ポイントの改善が予測されている。
3. 生産額、売上高、完成工事高は、今期 22.6 と前期との比較ではマイナス 3.3 ポイントとなり、3 期連続して悪化した。  
次四半期については 26.9 とマイナス 4.3 ポイントの悪化が予測されている。
4. 原材料、製(商)品仕入価格は、今期 58.6 と前期との比較ではプラス 5.1 ポイントで 4 期連続の上昇となった。  
次四半期については 54.9 とマイナス 3.7 ポイントの下落予測となっている。
5. 受注価格、販売価格は、今期 9.1 と前期との比較ではプラス 5.2 ポイントの改善となっている。  
次四半期については 5.7 とプラス 3.4 ポイントの改善が予測されている。
6. 営業利益は、今期 40.9 と前期との比較ではマイナス 7.6 ポイントの悪化となっている。  
次四半期については 37.0 とプラス 3.9 ポイントの改善が予測されている。
7. 売上増加の理由は、「受注、需要の増加」57.0%、「得意先開拓・客数の増加」45.8%に集中している。  
一方で減少した理由としては、「受注、需要の減少」75.9%、「出荷・販売価格の下、料金改定」31.6%、「得意先開拓・客数の減少」29.6%、「客単価の低下」27.7%の順となっている。

8. 当面の経営上の問題点としては、「売上高、生産額、工事高の伸び悩み」53.5%、「受注、販売競争の激化」51.8%、「営業利益の低下」46.7%、「原材料高、入手難」36.7%、「販売価格への転嫁難」30.4%の5項目へ指摘が集中している。

業種別では、建設業の「官公需要の停滞」45.7%。運輸・倉庫業の「人材難、求人難、定着性の悪化」45.2%、「経費の増加」41.9%。サービス業の「人材難、求人難、定着性の悪化」31.3%が挙げられ、いずれも3割を越す指摘となっている。

#### 参考指標

日経平均株価	12,525.54 円	(平成 20 年 3 月 31 日 終値)
対米ドル円相場	99.35 円	(平成 20 年 3 月 31 日)
対ユーロ円相場	156.95 円	(平成 20 年 3 月 31 日)
原油価格 (WTI)	US\$ 98.10/バレル	(平成 20 年 3 月 31 日 終値)

## 景気判断

4月の月例経済報告（内閣府）では景気の基調判断を「景気回復は、このところ足踏み状態にある。」とし、前月の判断は据え置かれたものの、先行きに対しては警戒感を強めている。

併せて「企業収益は、弱含みとなっている。設備投資は、おおむね横ばいとなっている。雇用情勢は、厳しさが残るなかで、改善に足踏みが見られる。個人消費は、おおむね横ばいとなっている。住宅建設は、おおむね持ち直している。輸出は、緩やかに増加している。生産は、横ばいとなっている。先行きについては、改正建築基準法施行の影響が収束していくなかで、輸出が増加基調で推移し、景気は緩やかに回復していくと期待される。ただし、サブプライム住宅ローン問題を背景とするアメリカの景気後退懸念や株式・為替市場の変動、原油価格の動向等から、景気の下振れリスクが高まっていることに留意する必要がある。」としている。

当所の今四半期（平成20年1～3月）調査において、地場企業の自社業況判断指数（DI値＝前年同期と比較し「良くなった」とする回答割合から「悪くなった」とする回答割合を引いた数値）の全業種平均DI値は 35.8 で前期比マイナス6.2ポイントと5期連続での悪化となった。

### 【DI値の推移】

H17 第1 期	H17 第2 期	H17 第3 期	H17 第4 期	H18 第1 期	H18 第2 期	H18 第3 期	H18 第4 期	H19 第1 期	H19 第2 期	H19 第3 期	H19 第4 期
17.7	17.3	3.0	10.4	17.1	17.4	11.2	16.9	17.0	28.2	29.6	35.8

## まとめ

今期の自社業況については、5期連続しての悪化となった。業種別においては、6業種中4業種で悪化がみられた。

次四半期の予測DI値は 33.8 となっており、6期ぶりの改善（今期比プラス2.0ポイント）が予測されている。

DI値は（平成3年度第2・四半期以来）67期連続でマイナス値となった。

全般的に「原材料費等仕入価格の高騰が収益を圧迫している」「原油高による燃料費の高騰に苦慮している」といった声が目立っており、原材料、製（商）品仕入価格DIは4期連続して上昇している。

加えて、生産額、売上高、完成工事高 DI が 3 期連続して減少するなど、原材料・製（商）仕入価格等の上昇分を販売価格へ転嫁できず、苦慮していることがうかがえられる。建設業では、改正建築基準法による影響が今もなお続いているとの声も聞かれ、又食料品等の値上げにともなう消費意欲の減退などの影響もあり、数多くの企業で景況感が悪化していることを示す結果となった。

今回の調査では、中企業では、前期比マイナス 5.5 ポイント（DI 値 36.1）と 3 期連続しての悪化となったが、大企業においても前期比マイナス 14.7 ポイント（DI 値 31.8）と 2 期ぶりに悪化となり、景況感の悪化が顕著となった。

業種別では、特に、小売業のマイナス幅が拡大しており（マイナス 15.5 ポイント、DI 値 35.2）、「先行きに不安を抱える現状においては、全般的に消費は伸びていない」「食料品等の値上げが消費の停滞につながっている」との声が数多く聞かれ、消費マインドの低下を指摘する声が数多く上がってきている。

#### 回答企業の主なコメントより(抜粋)

- ・ 改正建築基準法による影響が大きく、工事の絶対量が不足している。(建設)
- ・ 材料費価格の高騰が続いており、利益面を圧迫している。(建設)
- ・ 原材料の国内産回帰により、原材料の不足・高騰が著しい。(製造)
- ・ 原油高による原材料・仕入価格が高騰している。(製造)
- ・ 原材料、販管費の上昇分を販売価格に転嫁できず、又売上高も伸び悩んでおり、収益の悪化が避けられない。(卸売)
- ・ 食料品等の値上がりが消費の停滞につながっている。(小売)
- ・ 重油、石油関連資材、燃料ガス等の高騰に苦慮している。(サービス)
- ・ 原材料の大幅かつ広範囲な値上りに伴い、原価率がアップした。(サービス)
- ・ タクシー運賃改定による運賃アップが売上に反映されず、又運賃改定時よりも燃料費が高騰しており、経営を圧迫している。(運輸)
- ・ 建設認可の遅滞における資材の売上減少がひどく、倉庫在庫縮小・値引等の動きにつながっている。(倉庫)

# 1. 自社・業界の景況

《自社景況は5期連続して悪化、次期予測は反転し改善へ》

今四半期（H20年1～3月）の地場企業の景況判断指数（DI値）は、全業種平均で「良くなった」と回答した企業割合は16.1%（前期比-3.1ポイント）、「悪くなった」と回答した企業割合は51.9%（前期比+3.1ポイント）、「横ばい」と回答した企業割合は31.5%（前期比-0.2ポイント）となった。  
**DI値は 35.8（前期DI 29.6）**となり、前期比で-6.2ポイント悪化した。

業種別に対前期比でDI値を見ると、全産業中、製造業が+5.9ポイント（前期DI 33.3）と3期ぶりに、サービス業が+3.3ポイント（同 20.5）と4期ぶりに改善したものの、小売業-15.5ポイント（前期DI 35.2）、建設業-12.0ポイント（同 32.3）、卸売業-11.0ポイント（同 25.4）、運輸・倉庫業-8.0ポイント（同 53.3）の悪化となった。

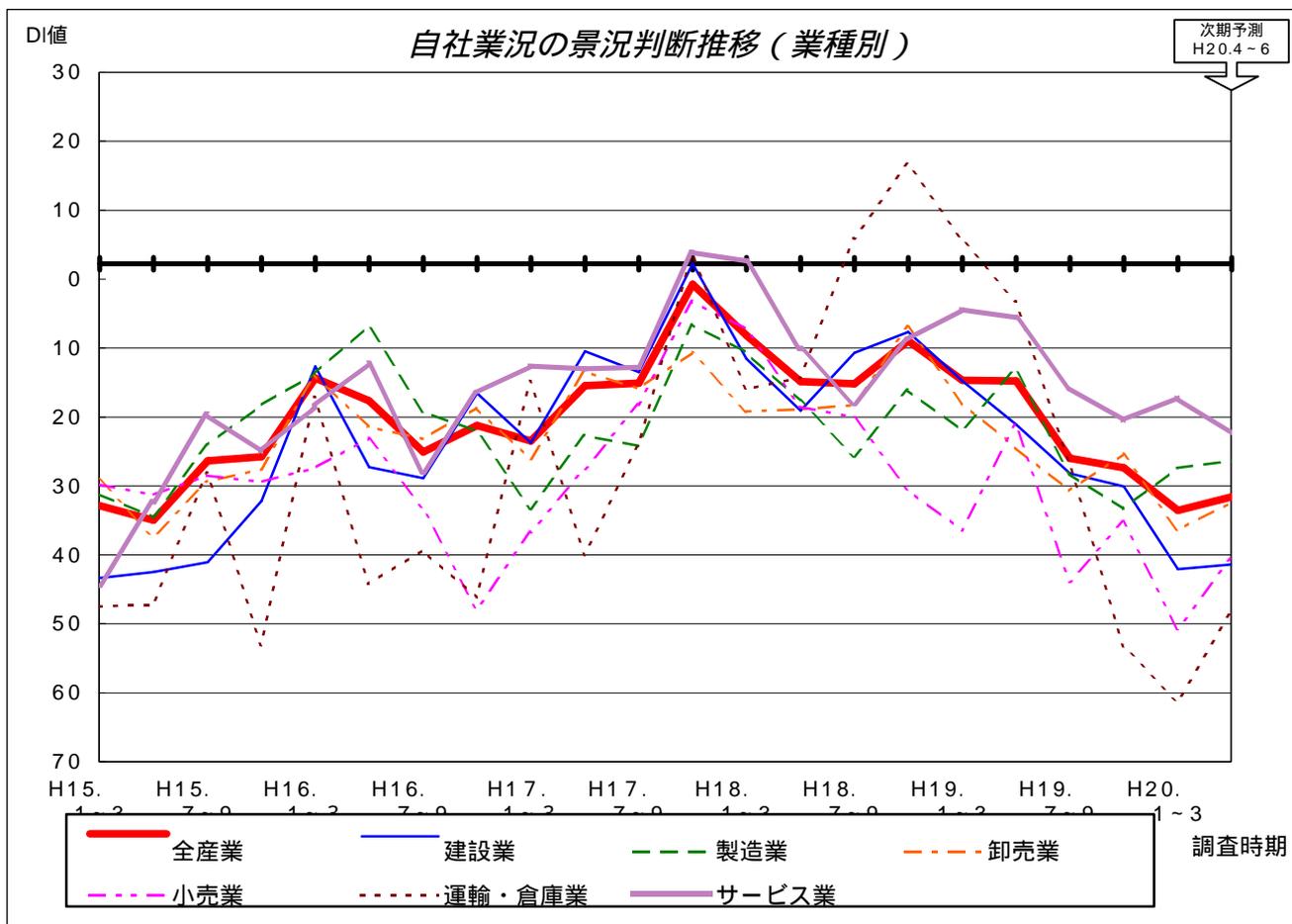
また、規模別のDI値を見ると、中小企業は前期比-5.5ポイント（前期DI 30.6）悪化し、大企業では-14.7ポイント（同 17.1）の悪化となった。

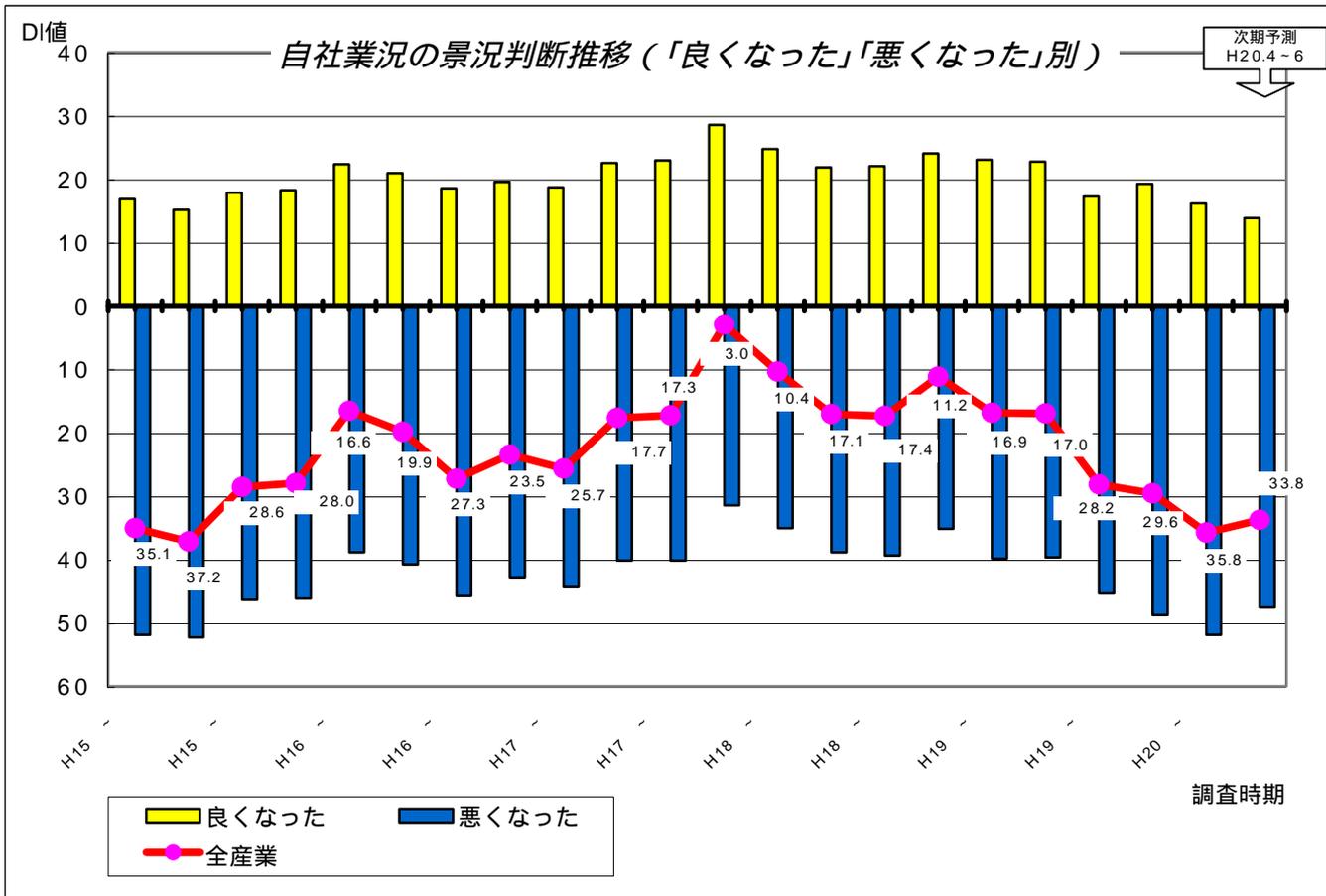
次四半期（H20年1～3月）の全業種予測DI値は 33.8（今期比+2.0ポイント）となっており、改善が見込まれている。

《自社業況の総合判断（前年同期と比較して）》

（単位 %）

	今四半期 (20年 1～3月期) 実績							次四半期 (20年 3～4月期) 予測						
	非常に良くなった	やや良くなった	横ばい	やや悪くなった	非常に悪くなった	未記入	D値	非常に良くなる	やや良くなる	横ばい	やや悪くなる	非常に悪くなる	未記入	D値
全業種	0.9	15.2	31.5	39.2	12.7	0.5	35.8	0.6	13.2	35.3	38.6	9.0	3.3	33.8
建設業	0.0	12.6	29.8	43	13.9	0.7	44.3	0.0	11.3	29.1	43.0	11.9	4.6	43.6
製造業	2.0	19.6	28.4	35.3	13.7	1.0	27.4	2.0	10.8	45.1	29.4	9.8	2.9	26.4
卸売業	0.7	14.9	31.8	43.9	8.1	0.7	36.4	0.0	15.5	33.1	43.2	4.7	3.4	32.4
小売業	2.5	7.6	29.1	48.1	12.7	0.0	50.7	2.5	8.9	35.4	44.3	7.6	1.3	40.5
運輸・倉庫業	0.0	6.5	25.8	32.3	35.5	0.0	61.3	0.0	6.5	38.7	38.7	16.1	0.0	48.3
サービス業	0.7	21.6	38.1	29.1	10.4	0.0	17.2	0.0	18.7	36.6	32.1	9.0	3.7	22.4
中小企業	0.8	14.6	32.4	38.4	13.1	0.5	36.1	0.5	13.3	34.8	38.6	9.5	3.3	34.3
大企業	2.3	22.7	18.2	50.0	6.8	0.0	31.8	2.3	11.4	43.2	38.6	2.3	2.3	27.2





### 業界の景況

《業界景況は5期連続して悪化、次期予測は反転し改善へ》

地場企業から見た自社の属する業界の景況判断指数（DI値）は、全業種平均で「良くなった」と回答した企業割合が5.0%、「悪くなった」と回答した企業割合が64.2%、「横ばい」と回答した企業割合が29.3%となっており、DI値は59.2（前期DI 52.9）と前期比で-6.3ポイント悪化している。

業種別に対前期比でDI値を見ると、製造業が-11.9ポイント（前期DI 48.0）、小売業-9.0ポイント（同 60.6）、建設業-6.9ポイント（同 57.4）、運輸・倉庫業-4.5ポイント（同 60.0）、卸売業-4.0ポイント（同 60.9）、サービス業-2.1ポイント（同 37.5）と全業種で悪化となった。

規模別のDI値を見ると、中小企業は前期比-4.7ポイント（前期DI 54.2）、大企業では前期比-29.5ポイント（同 37.5）の悪化となった。

次四半期予測DI値は52.5と今期比+6.7ポイントの改善が予測されている。

《業界の景気動向（前年同期と比較して）》

（単位 %）

	今四半期 (20年 1~ 3月期) 実績							次四半期 (20年 4~ 6月期) 予測						
	非常に良くなった	やや良くなった	横ばい	やや悪くなった	非常に悪くなった	未記入	D値	非常に良くなる	やや良くなる	横ばい	やや悪くなる	非常に悪くなる	未記入	D値
全業種	0.0	5.0	29.3	48.7	15.5	1.6	59.2	0.5	5.0	32.1	44.0	14.0	4.5	52.5
建設業	0.0	7.9	19.2	50.3	21.9	0.7	64.3	0.0	8.6	23.8	41.7	21.2	4.6	54.3
製造業	0.0	2.9	32.4	47.1	15.7	2.0	59.9	2.0	2.9	34.3	45.1	11.8	3.9	52.0
卸売業	0.0	4.7	23.6	56.1	13.5	2.0	64.9	0.0	5.4	27.0	51.4	11.5	4.7	57.5
小売業	0.0	1.3	26.6	55.7	15.2	1.3	69.6	1.3	3.8	30.4	49.4	11.4	3.8	55.7
運輸・倉庫業	0.0	0.0	35.5	35.5	29.0	0.0	64.5	0.0	0.0	41.9	32.3	25.8	0.0	58.1
サービス業	0.0	6.7	44.8	38.8	7.5	2.2	39.6	0.0	3.7	44.0	37.3	9.0	6.0	42.6
中小企業	0.0	5.2	29.1	47.8	16.3	1.7	58.9	0.5	5.2	31.8	43.4	14.5	4.7	52.2
大企業	0.0	2.3	31.8	61.4	4.5	0.0	63.6	0.0	2.3	36.4	52.3	6.8	2.3	56.8

## 2. 生産額、売上高、完成工事高

《3期連続して悪化、次期予測はさらに悪化へ》

生産額、売上額、完成工事高は、全業種平均で「増えた」と回答した企業割合は16.6%、「減った」と回答した企業割合は39.2%となっており、DI値は 22.6（前期 19.3）と前期比-3.3ポイント悪化した。

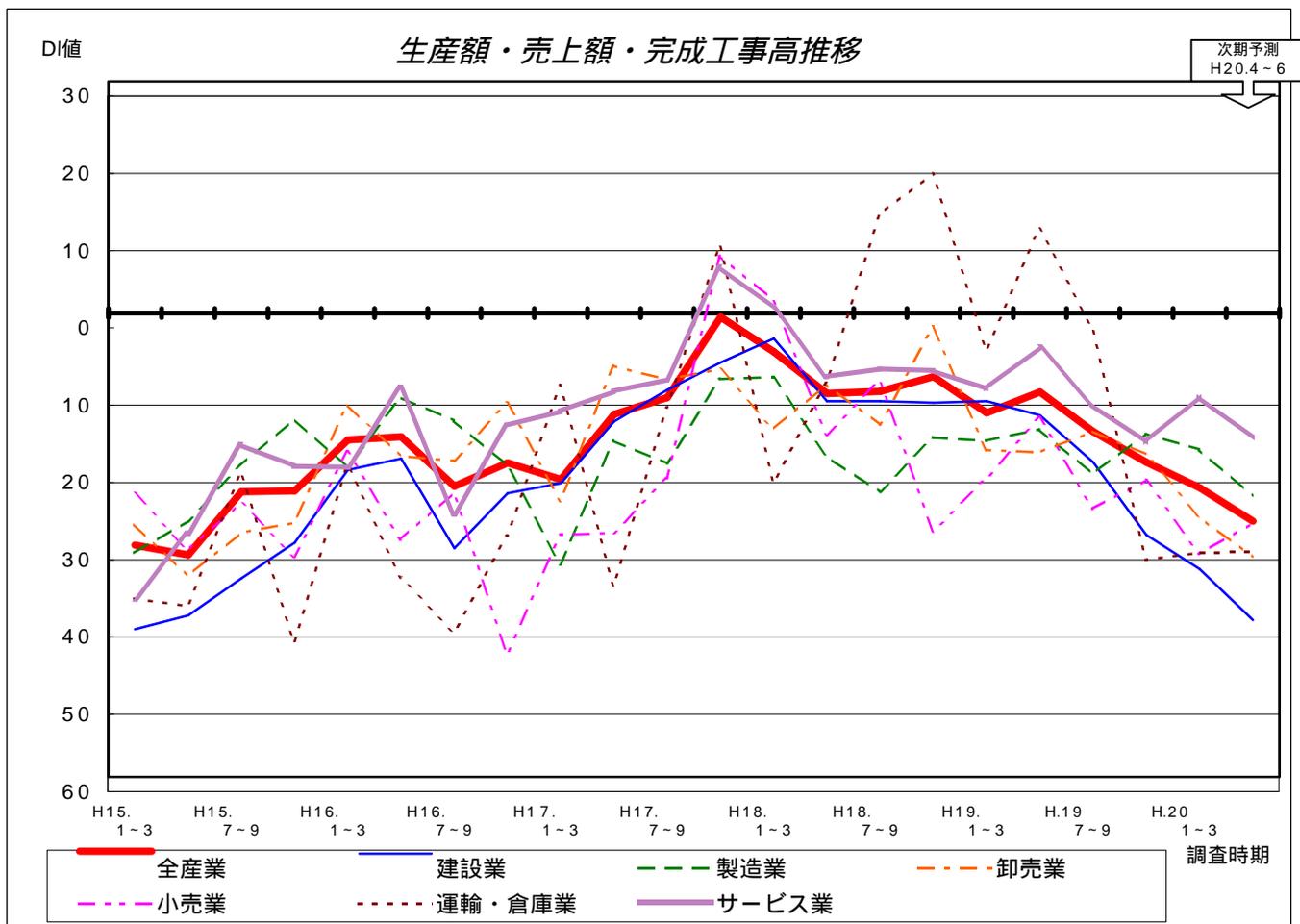
業種別に対前期比でDI値を見ると、サービス業+5.9ポイント、運輸・倉庫業+0.9ポイントの改善が見られたものの、小売業-9.5ポイント、卸売業-8.1ポイント、建設業-4.4ポイント、製造業-2.0ポイントの悪化となった。

売上が増加した理由としては、「受注、需要の増加」57.0%、「得意先開拓・客数の増加」45.8%に集中している。一方で、減少した理由としては、「受注、需要の減少」75.9%、「出荷・販売価格の下、料金改定」31.6%、「得意先開拓・客数の減少」29.6%、「客単価の低下」27.7%の順となっている。

規模別のDI値を見ると、中小企業は前期比-3.2ポイント（前期DI値 19.8）悪化し、大企業では前期比-5.9ポイント（同 12.2）の悪化となった。

（単位 %）

	今四半期 (20年 1~3月期) 実績							次四半期 (20年 4~6月期) 予測						
	2ケタ増	1ケタ増	横ばい	1ケタ減	2ケタ減	未記入	D値	2ケタ増	1ケタ増	横ばい	1ケタ減	2ケタ減	未記入	D値
全業種	3.3	13.3	40.8	29.1	10.1	3.4	22.6	1.4	11.2	41.6	32.2	7.3	6.4	26.9
建設業	0.7	6.0	49.7	28.5	11.3	4.0	33.1	0.0	6.6	38.4	33.1	13.2	8.6	39.7
製造業	5.9	17.6	35.3	30.4	8.8	2.0	15.7	3.9	12.7	41.2	31.4	6.9	3.9	21.7
卸売業	4.7	15.5	31.8	34.5	10.1	3.4	24.4	1.4	12.2	37.2	38.5	4.7	6.1	29.6
小売業	2.5	11.4	39.2	30.4	12.7	3.8	29.2	2.5	7.6	49.4	27.8	7.6	5.1	25.3
運輸・倉庫業	3.2	6.5	48.4	32.3	6.5	3.2	29.1	0.0	6.5	54.8	35.5	0.0	3.2	29.0
サービス業	3.0	18.7	44.0	21.6	9.0	3.7	8.9	0.7	17.2	42.5	26.9	5.2	7.5	14.2
中小企業	3.3	13.0	40.9	29.0	10.3	3.5	23.0	1.3	11.1	40.9	32.3	7.7	6.7	27.6
大企業	2.3	18.2	38.6	31.8	6.8	2.3	18.1	2.3	11.4	50.0	31.8	2.3	2.3	20.4



参考資料：（ 2 . 生産額、売上高、完成工事高 ）

今期の生産額、売上額、完成工事高が前年同期より増加した主な理由（複数回答可）（単位 %）

増加理由	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
	天候などの自然条件	増加又は減少の注、需要の減少	道路、交通事情の変化	製（商）品又は消費者のニーズの変化	出荷・販売価格の上下、料価	促進等の販売	新製（商）品への進出	大手企業、業者の参入、他	客数の先開拓・増減	客単価の低下	取扱量の増減（商）
全業種	12.1	57.0	0.9	9.3	18.7	2.8	11.2	3.7	45.8	16.8	14.0
建設業	0.0	100.0	0.0	0.0	10.0	0.0	0.0	0.0	20.0	30.0	10.0
製造業	16.7	70.8	4.2	12.5	20.8	0.0	8.3	4.2	37.5	8.3	20.8
卸売業	13.3	43.3	0.0	13.3	26.7	3.3	13.3	3.3	50.0	23.3	16.7
小売業	27.3	45.5	0.0	0.0	18.2	9.1	27.3	0.0	36.4	9.1	18.2
運輸・倉庫業	33.3	0.0	0.0	66.7	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	33.3	0.0
サービス業	3.4	55.2	0.0	3.4	13.8	3.4	10.3	6.9	55.2	13.8	6.9
中小企業	13.3	57.1	1.0	10.2	17.3	2.0	10.2	4.1	44.9	16.3	13.3
大企業	0.0	55.6	0.0	0.0	33.3	11.1	22.2	0.0	55.6	22.2	22.2

増加理由	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
	取扱品の品質向上	採算部門の縮小	工場、店舗の移転等	支店の開設、特約店の増減	老朽設備の低下、競争力の増進	機械設備の導入、買替	営業の増減、外資	技術者の増減、運転	駐車場の増設	その他	無回答
全業種	0.0	2.8	0.0	2.8	0.0	1.9	4.7	3.7	0.9	6.5	1.9
建設業	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	10.0	0.0	0.0	0.0
製造業	0.0	4.2	0.0	0.0	0.0	8.3	4.2	0.0	4.2	16.7	0.0
卸売業	0.0	3.3	0.0	3.3	0.0	0.0	6.7	0.0	0.0	0.0	0.0
小売業	0.0	9.1	0.0	0.0	0.0	0.0	9.1	0.0	0.0	0.0	9.1
運輸・倉庫業	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0
サービス業	0.0	0.0	0.0	6.9	0.0	0.0	3.4	6.9	0.0	10.3	3.4
中小企業	0.0	3.1	0.0	2.0	0.0	1.0	4.1	4.1	1.0	5.1	2.0
大企業	0.0	0.0	0.0	11.1	0.0	11.1	11.1	0.0	0.0	22.2	0.0

今期の生産額、売上額、完成工事高が前年同期より減少した主な理由（複数回答可）（単位 %）

減少理由	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
	天候などの自然条件	増加又は減少の注、需要の減少	道路、交通事情の変化	製（商）品又は消費者のニーズの変化	出荷・販売価格の上下、料価	促進等の販売	新製（商）品への進出	大手企業、業者の参入、他	客数の先開拓・増減	客単価の低下	取扱量の増減（商）
全業種	12.3	75.9	2.4	18.2	31.6	1.6	0.4	16.6	29.6	27.7	8.7
建設業	0.0	91.7	0.0	1.7	26.7	0.0	0.0	11.7	28.3	31.7	3.3
製造業	7.5	87.5	0.0	20.0	35.0	2.5	0.0	10.0	25.0	22.5	12.5
卸売業	18.2	72.7	1.5	34.8	43.9	3.0	0.0	21.2	31.8	25.8	12.1
小売業	32.4	50.0	5.9	26.5	29.4	2.9	0.0	20.6	20.6	41.2	0.0
運輸・倉庫業	33.3	58.3	25.0	0.0	25.0	0.0	0.0	16.7	16.7	0.0	33.3
サービス業	2.4	73.2	0.0	12.2	19.5	0.0	2.4	19.5	43.9	26.8	7.3
中小企業	11.4	77.1	2.5	17.4	32.2	1.7	0.4	16.1	30.5	27.1	9.3
大企業	23.5	58.8	0.0	29.4	23.5	0.0	0.0	23.5	17.6	35.3	0.0

減少理由	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
	取扱品の品質向上	採算部門の縮小	工場、店舗の移転等	支店の開設、特約店の増減	老朽設備の低下、競争力の増進	機械設備の導入、買替	営業の増減、外資	技術者の増減、運転	駐車場の増設	その他	無回答
全業種	2.0	0.8	1.2	1.6	1.6	1.6	3.6	3.6	0.0	9.9	2.4
建設業	0.0	0.0	0.0	0.0	1.7	0.0	0.0	6.7	0.0	10.0	3.3
製造業	0.0	0.0	2.5	5.0	5.0	2.5	2.5	2.5	0.0	10.0	0.0
卸売業	1.5	1.5	1.5	1.5	0.0	1.5	7.6	0.0	0.0	7.6	1.5
小売業	0.0	2.9	0.0	0.0	2.9	0.0	0.0	0.0	0.0	17.6	5.9
運輸・倉庫業	8.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0	8.3	0.0
サービス業	7.3	0.0	2.4	2.4	0.0	4.9	7.3	2.4	0.0	7.3	2.4
中小企業	2.1	0.8	1.3	1.3	1.3	1.7	3.8	3.8	0.0	10.6	2.1
大企業	0.0	0.0	0.0	5.9	5.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	5.9

### 3. 原材料、製（商）品仕入価格

《4期連続して上昇、次期予測は反転し下落へ》

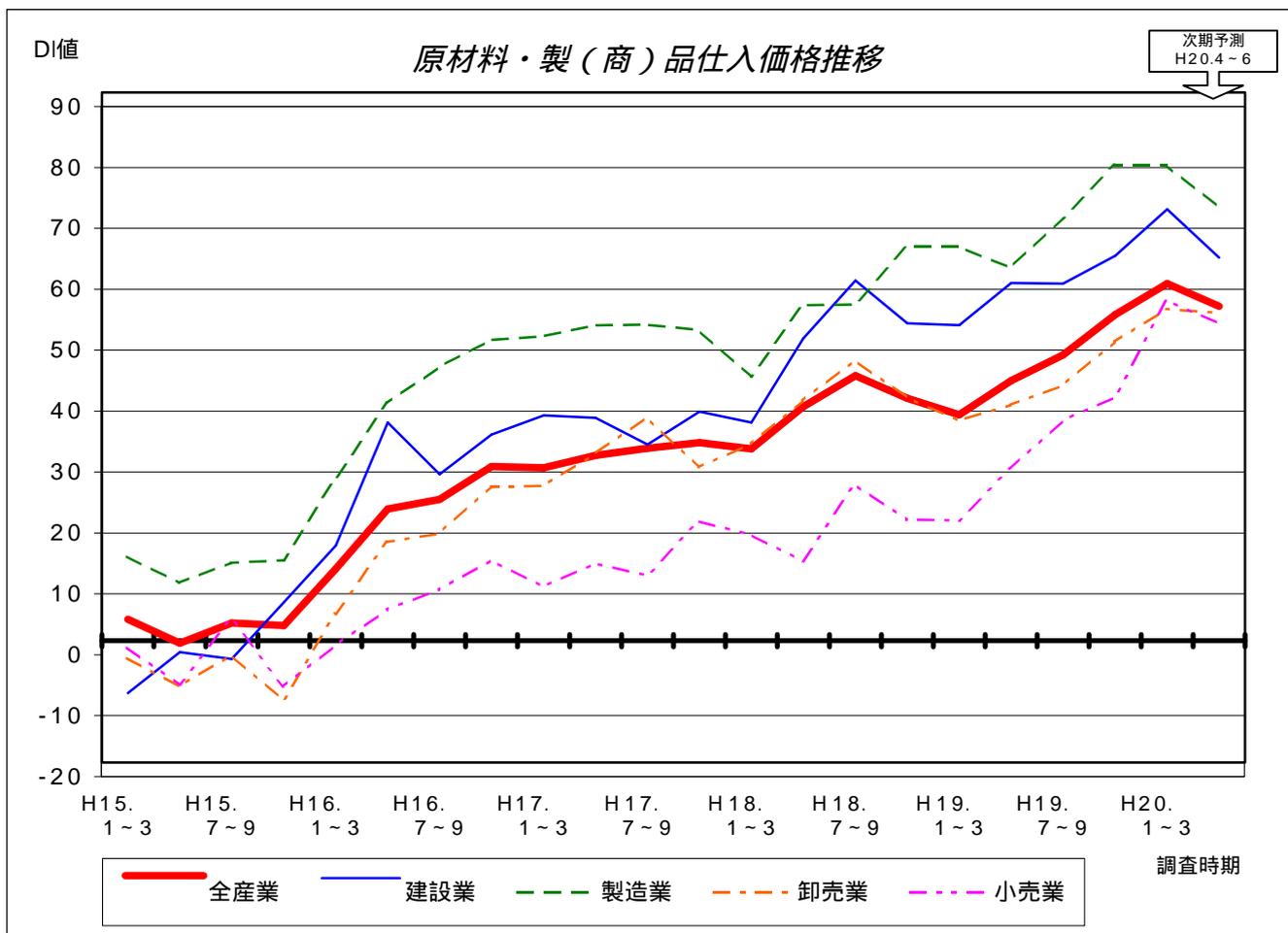
原材料、製（商）品仕入価格は「上昇」と回答した企業割合は60.6%、「下落」と回答した企業割合は2.0%となっており、DI値は58.6（前期DI値53.5）と前期比+5.1ポイントの「上昇」となっている。

業種別に対前期比でDI値を見ると、小売業+15.9ポイント、建設業+7.6ポイント、卸売業+5.4ポイントの上昇となっており、製造業は横ばいとなっている。

また、次期予測DI値については、54.9となっており、今期比で-3.7ポイントの「下落」予測となっている。

《原材料、製品仕入価格(前年同期と比較して)》 (単位 %)

	今四半期(20年1~3月期)実績					次四半期(20年4~6月期)予測				
	上昇	横ばい	下落	未記入	DI値	上昇	横ばい	下落	未記入	DI値
全業種	60.6	27.8	2.0	9.6	58.6	57.2	25.4	2.3	15.0	54.9
建設業	71.5	19.9	0.7	7.9	70.8	64.2	19.2	1.3	15.2	62.9
製造業	81.4	17.6	1.0	0.0	80.4	73.5	21.6	0.0	4.9	73.5
卸売業	61.5	31.8	4.7	2.0	56.8	62.2	25.7	6.1	6.1	56.1
小売業	62.0	32.9	3.8	1.3	58.2	58.2	29.1	3.8	8.9	54.4
運輸・倉庫業	35.5	12.9	0.0	51.6	35.5	29.0	19.4	0.0	51.6	29.0
サービス業	36.6	40.3	0.7	22.4	35.9	37.3	34.3	0.7	27.6	36.6
中小企業	60.6	27.6	2.0	9.8	58.6	57.1	25.3	2.3	15.3	54.8
大企業	61.4	29.5	2.3	6.8	59.1	59.1	27.3	2.3	11.4	56.8



#### 4. 受注価格、販売価格

《2期連続して改善、次期予測はさらに改善へ》

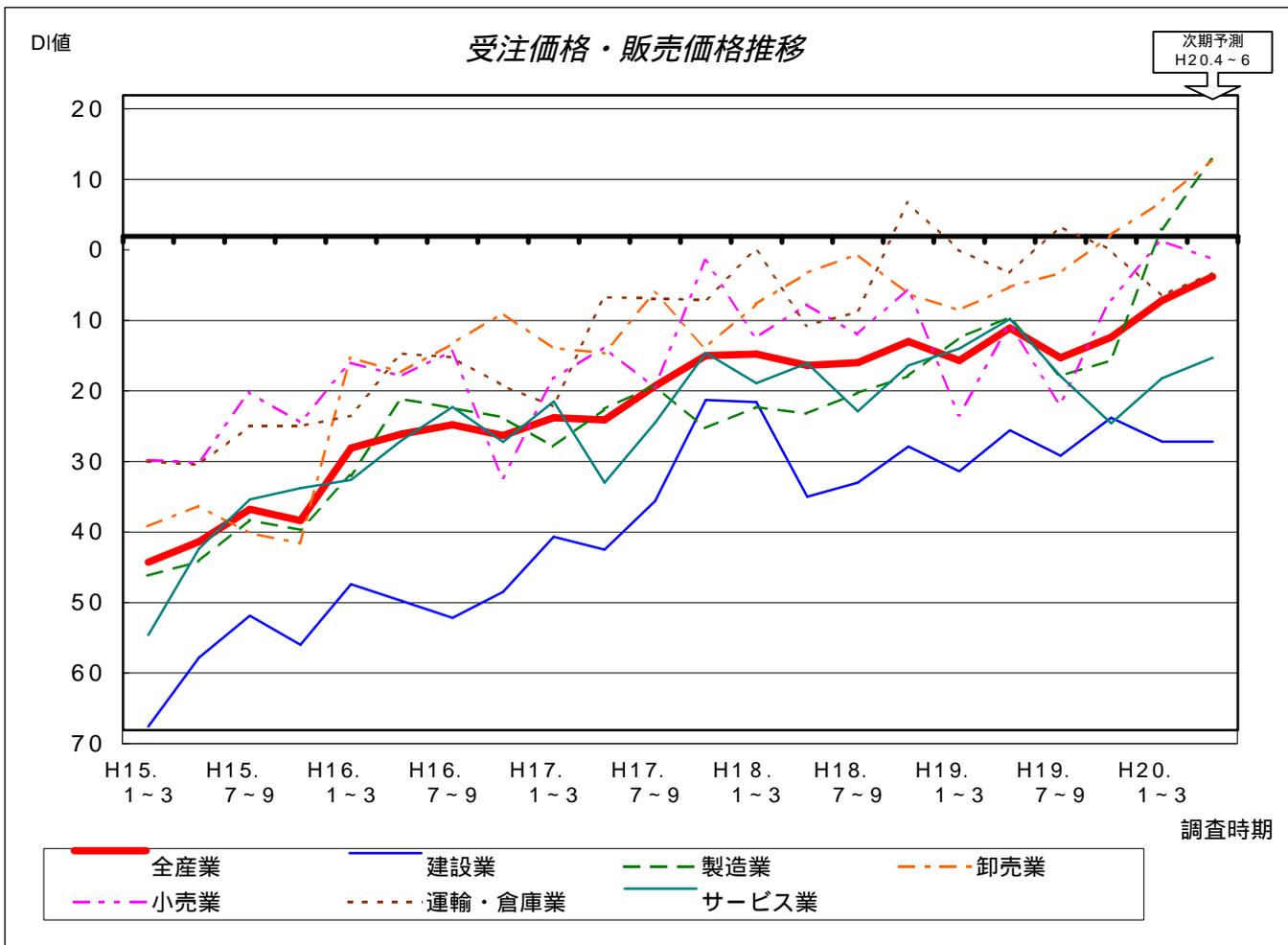
受注価格、販売価格については、「上昇」と回答した企業割合は13.2%、「下落」と回答した企業割合は22.3%となっており、DI値は9.1（前期DI値14.3）と前期比+5.2ポイント改善した。

業種別に対前期比でDI値を見ると、製造業+18.6ポイント、小売業+8.3ポイント、サービス業+6.4ポイント、卸売業+4.7ポイント改善したが、運輸・倉庫業-6.5ポイント、建設業-3.4ポイントの悪化となった。

次四半期予測DI値については、5.7となっており、今期比で+3.4ポイントの改善予測となっている。

《受注価格、販売価格（前年同月と比較して）》 (単位 %)

	今四半期 (20年 1~ 3月期)実績					次四半期 (20年 4~ 6月期)予測				
	上昇	横ばい	下落	未記入	DI値	上昇	横ばい	下落	未記入	DI値
全業種	13.2	60.5	22.3	4.0	9.1	15.2	54.4	20.9	9.5	5.7
建設業	5.3	57.0	34.4	3.3	29.1	6.0	48.3	35.1	10.6	29.1
製造業	14.7	73.5	11.8	0.0	2.9	21.6	62.7	8.8	6.9	12.8
卸売業	26.4	52.0	19.6	2.0	6.8	30.4	46.6	17.6	5.4	12.8
小売業	20.3	55.7	19.0	5.1	1.3	17.7	54.4	19.0	8.9	1.3
運輸・倉庫業	3.2	67.7	9.7	19.4	6.5	3.2	67.7	6.5	22.6	3.3
サービス業	4.5	64.9	24.6	6.0	20.1	5.2	60.4	22.4	11.9	17.2
中小企業	13.0	59.9	22.8	4.3	9.8	15.0	53.6	21.6	9.8	6.6
大企業	15.9	68.2	15.9	0.0	0.0	18.2	65.9	11.4	4.5	6.8



## 5. 製(商)品在庫

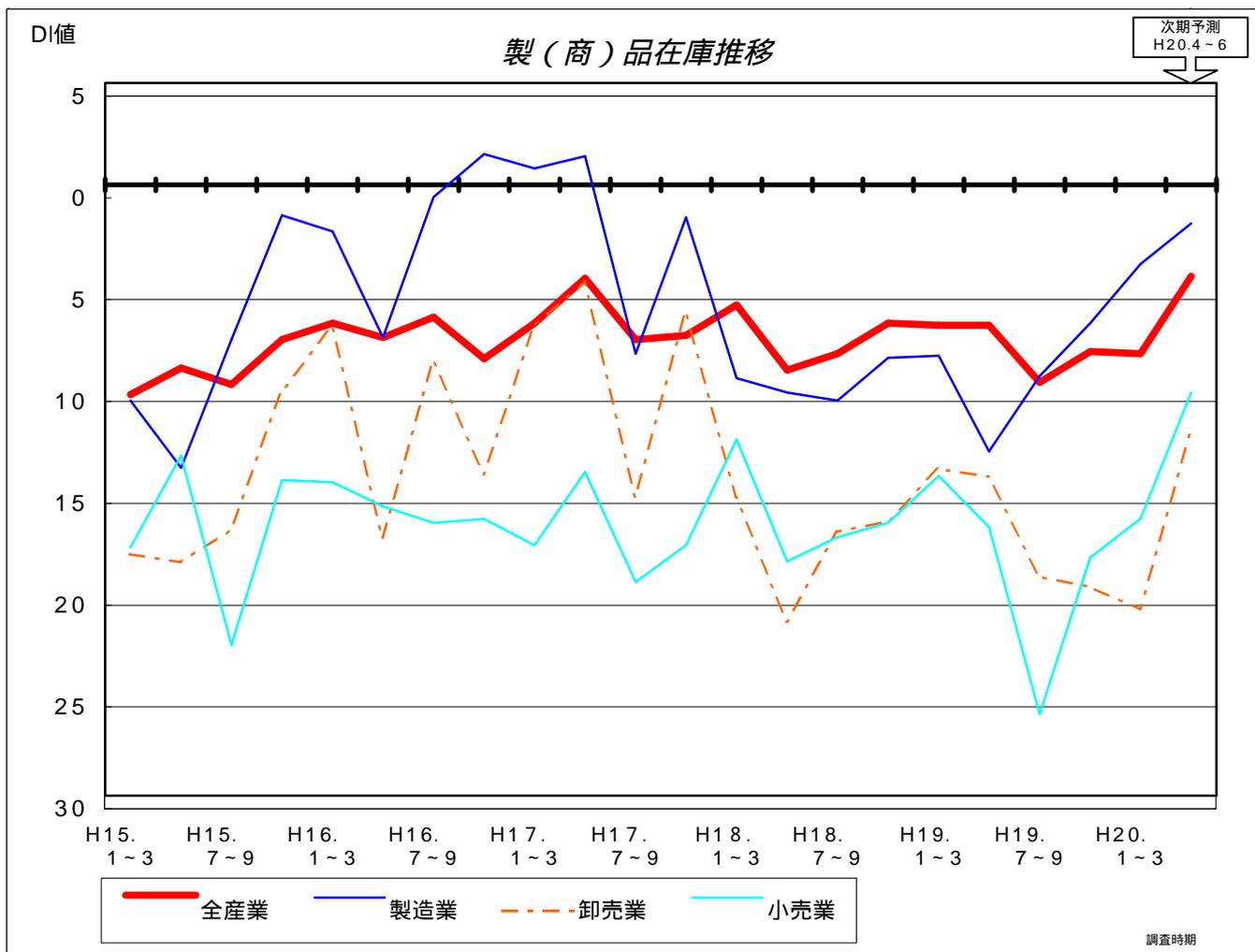
《2期ぶりに悪化、次期予測は反転し改善へ》

製(商)品在庫は、「適正」と回答した企業割合は62.9%、「不足」と回答した企業割合は2.6%、「過剰」と回答した企業割合は10.9%となっており、DI値は8.3(前期DI値8.2)と前期比-0.1ポイント悪化した。

次四半期予測DI値については4.5となっており、今期比で+3.8ポイントの改善が予測されている。

《製(商)品在庫(貴社の適正水準と比較して)》 (単位%)

	今四半期(20年1~3月期)実績					次四半期(20年4~6月期)予測				
	不足	適正	過剰	未記入	DI値	不足	適正	過剰	未記入	DI値
全業種	2.6	62.9	10.9	23.6	8.3	2.9	62.9	7.4	26.7	4.5
建設業	1.3	53.6	4.0	41.1	2.7	1.3	50.3	4.0	44.4	2.7
製造業	6.9	76.5	10.8	5.9	3.9	6.9	77.5	8.8	6.9	1.9
卸売業	1.4	72.3	21.6	4.7	20.2	2.0	75.0	13.5	9.5	11.5
小売業	1.3	77.2	17.7	3.8	16.4	2.5	75.9	12.7	8.9	10.2
運輸・倉庫業	6.5	19.4	3.2	71.0	3.3	6.5	22.6	3.2	67.7	3.3
サービス業	2.2	54.5	4.5	38.8	2.3	2.2	54.5	1.5	41.8	0.7
中小企業	2.8	62.2	11.0	24.0	8.2	3.2	62.7	7.2	27.0	4.0
大企業	0.0	72.7	9.1	18.2	9.1	0.0	65.9	11.4	22.7	11.4



## 6. 営業利益

《2期ぶりに悪化、次期予測は反転し改善へ》

営業利益は、「増加」と回答した企業割合は11.2%、「減少した」と回答した企業割合は52.1%、「横ばい」と回答した企業割合は35.0%となり、DI値は40.9（前期DI 33.3）と前期比-7.6ポイント悪化した。

業種別に対前期比でDI値を見ると、製造業+5.9ポイント（前期DI値 47.1）、運輸・倉庫業+5.1ポイント（同 56.7）改善したが、小売業-18.2ポイント（同 32.4）、卸売業-12.6ポイント（同 22.6）、建設業-11.1ポイント（同 41.9）、サービス業-4.0ポイント（同 21.3）の悪化となった。

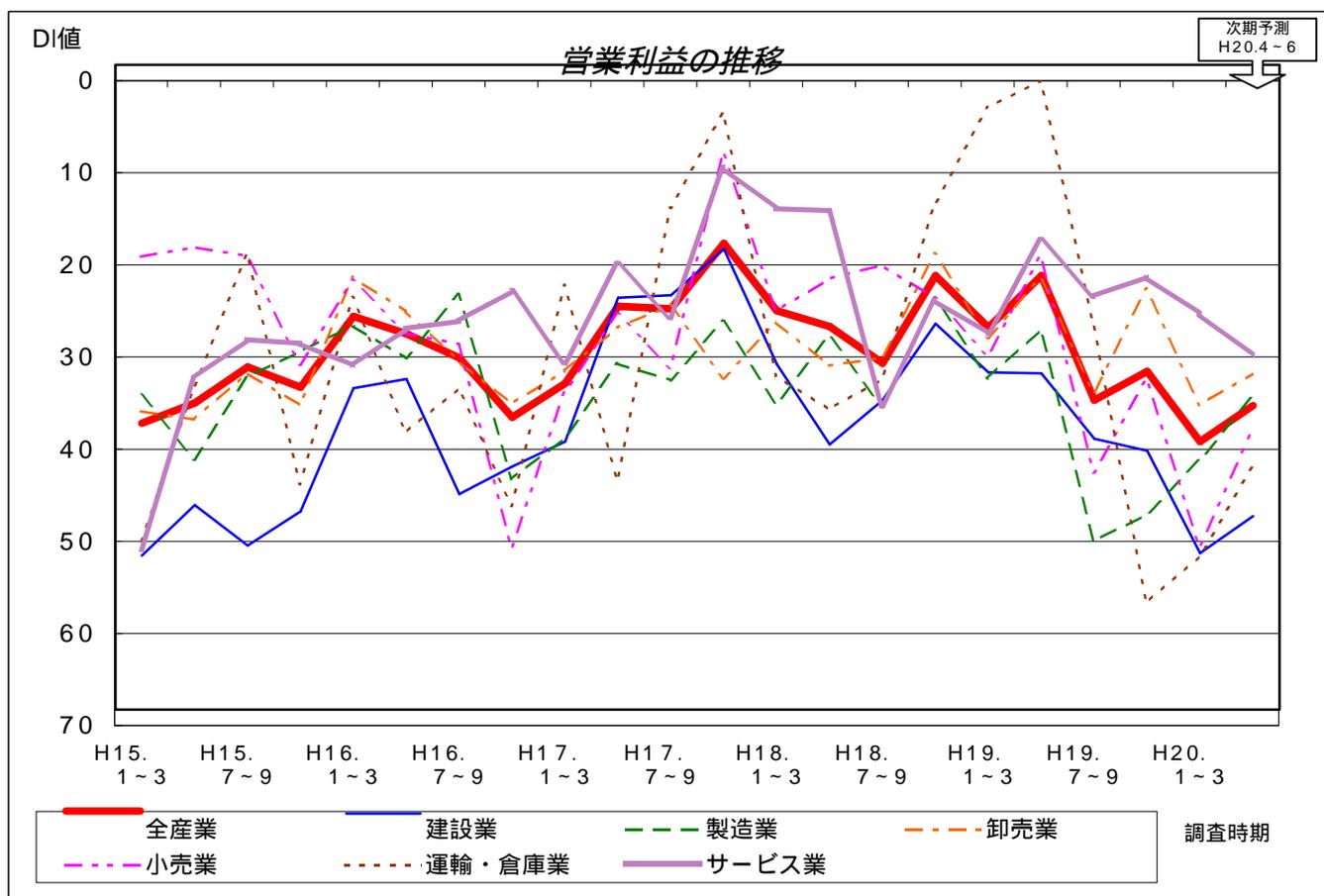
規模別のDI値を見ると、中小企業は前期比-7.1ポイント（前期DI 35.2）、大企業では前期比-15.3ポイント（同 7.4）悪化した。

次四半期予測DI値は37.0と、今期比で+3.9ポイントの改善が予測されている。

《営業利益（前年同期と比較して）》

（単位 %）

	今四半期（20年1～3月期）実績					次四半期（20年4～6月期）予測				
	増加	横ばい	減少	未記入	DI値	増加	横ばい	減少	未記入	DI値
全業種	11.2	35.0	52.1	1.7	40.9	7.8	40.5	44.8	7.0	37.0
建設業	7.3	29.1	60.3	3.3	53.0	4.6	31.8	53.6	9.9	49.0
製造業	12.7	33.3	53.9	0.0	41.2	8.8	43.1	43.1	4.9	34.3
卸売業	10.1	42.6	45.3	2.0	35.2	8.1	46.6	39.9	5.4	31.8
小売業	8.9	31.6	59.5	0.0	50.6	7.6	41.8	45.6	5.1	38.0
運輸・倉庫業	9.7	25.8	61.3	3.2	51.6	3.2	41.9	45.2	9.7	42.0
サービス業	17.2	38.8	42.5	1.5	25.3	11.2	40.3	41.0	7.5	29.8
中小企業	10.1	35.6	52.4	1.8	42.3	7.3	40.3	45.3	7.2	38.0
大企業	25.0	27.3	47.7	0.0	22.7	13.6	43.2	38.6	4.5	25.0



## 7. 売掛期間

《3期ぶりに改善、次期予測は反転し悪化へ》

売掛期間は、「短縮化」と回答した企業割合は1.6%、「長期化」と回答した企業割合は10.9%、「不変」と回答した企業割合は83.9%となっており、DI値は9.3と前期比+0.6ポイント改善した。

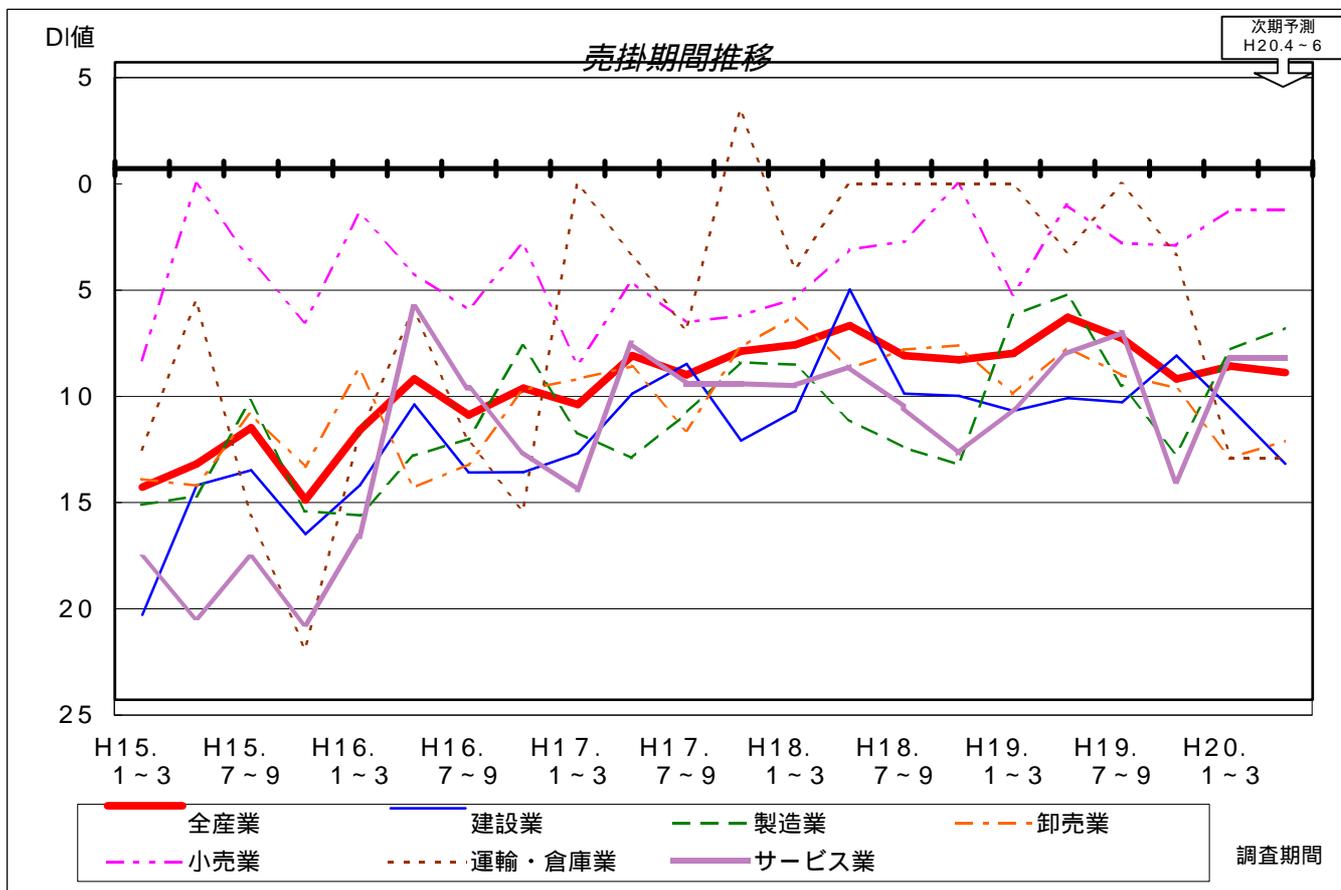
規模別のDI値を見ると、中小企業は前期比+0.6ポイント（前期DI 10.2）改善し、大企業では前期比+0.4ポイント（同 0.4）の改善となった。

次四半期のDI値については9.6と、今期比で-0.3ポイントの悪化が予測されている。

《売掛期間（前年同期と比較して）》

（単位 %）

	今四半期(20年1~3月期)実績					次四半期(20年4~6月期)予測				
	短縮化	不変	長期化	未記入	DI値	短縮化	不変	長期化	未記入	DI値
全業種	1.6	83.9	10.9	3.7	9.3	1.4	78.4	11.0	9.1	9.6
建設業	1.3	80.8	12.6	5.3	11.3	1.3	71.5	15.2	11.9	13.9
製造業	1.0	89.2	8.8	1.0	7.8	1.0	84.3	7.8	6.9	6.8
卸売業	2.0	81.8	14.9	1.4	12.9	1.4	79.7	13.5	5.4	12.1
小売業	1.3	94.9	2.5	1.3	1.2	1.3	89.9	2.5	6.3	1.2
運輸・倉庫業	0.0	77.4	12.9	9.7	12.9	0.0	74.2	12.9	12.9	12.9
サービス業	2.2	80.6	10.4	6.7	8.2	2.2	74.6	10.4	12.7	8.2
中小企業	1.5	83.4	11.1	4.0	9.6	1.3	77.9	11.3	9.5	10.0
大企業	2.3	90.9	6.8	0.0	4.5	2.3	86.4	6.8	4.5	4.5



## 8. 資金繰り

《前期比横ばい、次期予測は悪化へ》

資金繰りについては、「楽である」と回答した企業は4.8%、「苦しい」と回答した企業は27.6%、「不変」と回答した企業は64.5%となっており、DI値は 22.8と前期比横ばいとなった。

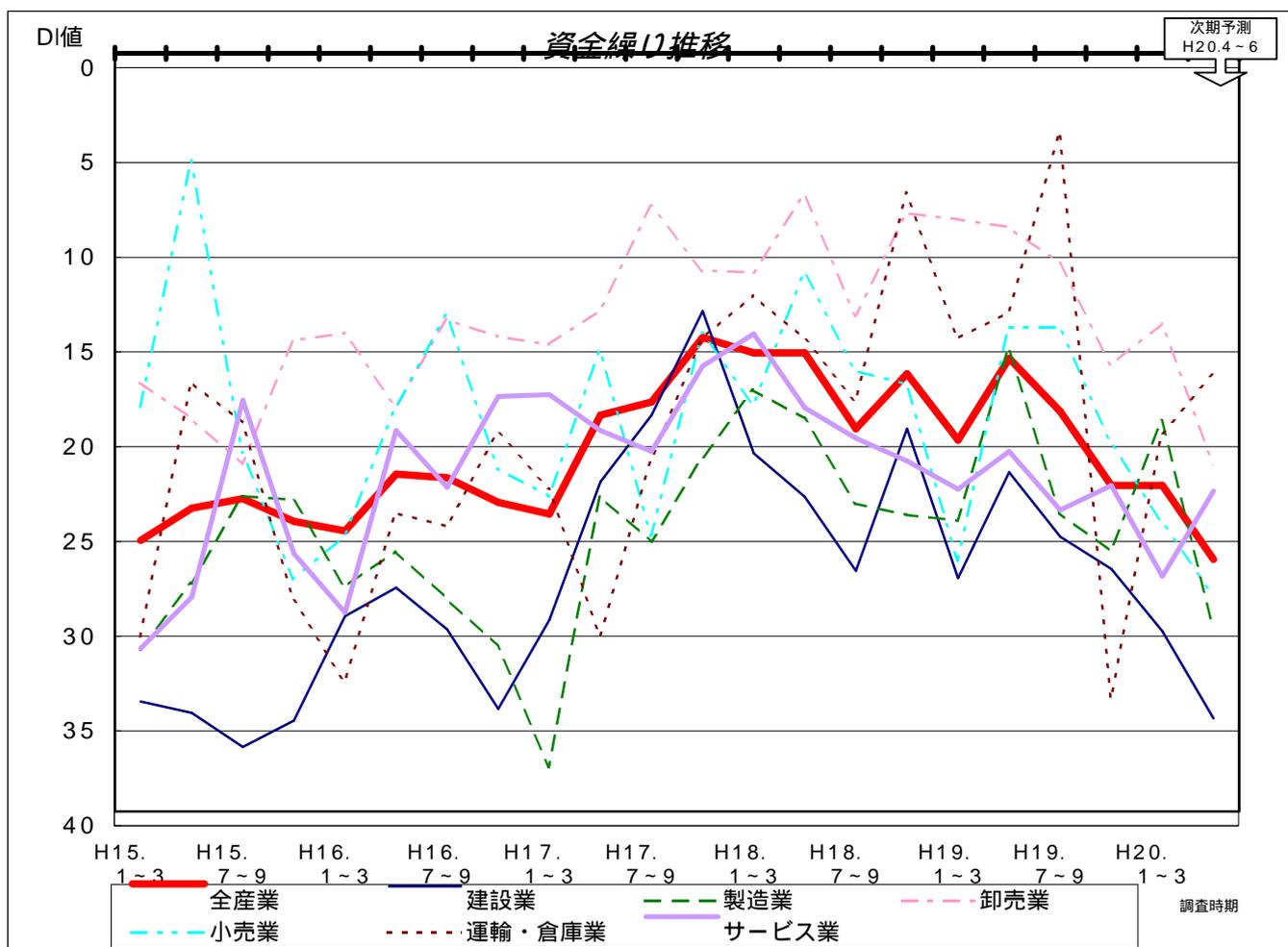
業種別に対前期比でDI値を見ると、運輸・倉庫業は+14.0ポイント、製造業+6.9ポイント、卸売業+2.2ポイント改善したものの、サービス業-4.8ポイント、小売業-4.2ポイント、建設業-3.3ポイントの悪化となった。

規模別のDI値を見ると、中小企業は前期比+0.4ポイント（前期DI 24.5）改善となったものの、大企業では前期比-7.0ポイント（同2.4）悪化となった。

《資金繰り(前年同期と比較して)》

(単位 %)

	今四半期(20年1~3月期)実績					次四半期(20年4~6月期)予測				
	楽である	不変	苦しい	未記入	DI値	楽になる	不変	苦しくなる	未記入	DI値
全業種	4.8	64.5	27.6	3.1	22.8	3.1	59.4	29.8	7.8	26.7
建設業	3.3	57.6	33.8	5.3	30.5	2.6	49.0	37.7	10.6	35.1
製造業	5.9	68.6	24.5	1.0	18.6	2.9	59.8	32.4	4.9	29.5
卸売業	7.4	69.6	20.9	2.0	13.5	3.4	66.9	24.3	5.4	20.9
小売業	3.8	67.1	27.8	1.3	24.0	1.3	62.0	29.1	7.6	27.8
運輸・倉庫業	6.5	61.3	25.8	6.5	19.3	3.2	71.0	19.4	6.5	16.2
サービス業	3.0	62.7	30.6	3.7	27.6	4.5	58.2	27.6	9.7	23.1
中小企業	4.7	63.6	28.8	3.0	24.1	3.2	58.1	30.9	7.8	27.7
大企業	6.8	77.3	11.4	4.5	4.6	2.3	77.3	13.6	6.8	11.3



## 9. 100万円以上の新規借入

100万円以上の新規借入を「行った」とする企業は46.0%（前期47.7%）と前期比で-1.7%の減少となった。一方で、「行っていない」とする企業は51.8%（前期50.2%）と前期比で+1.6%の増加となった。

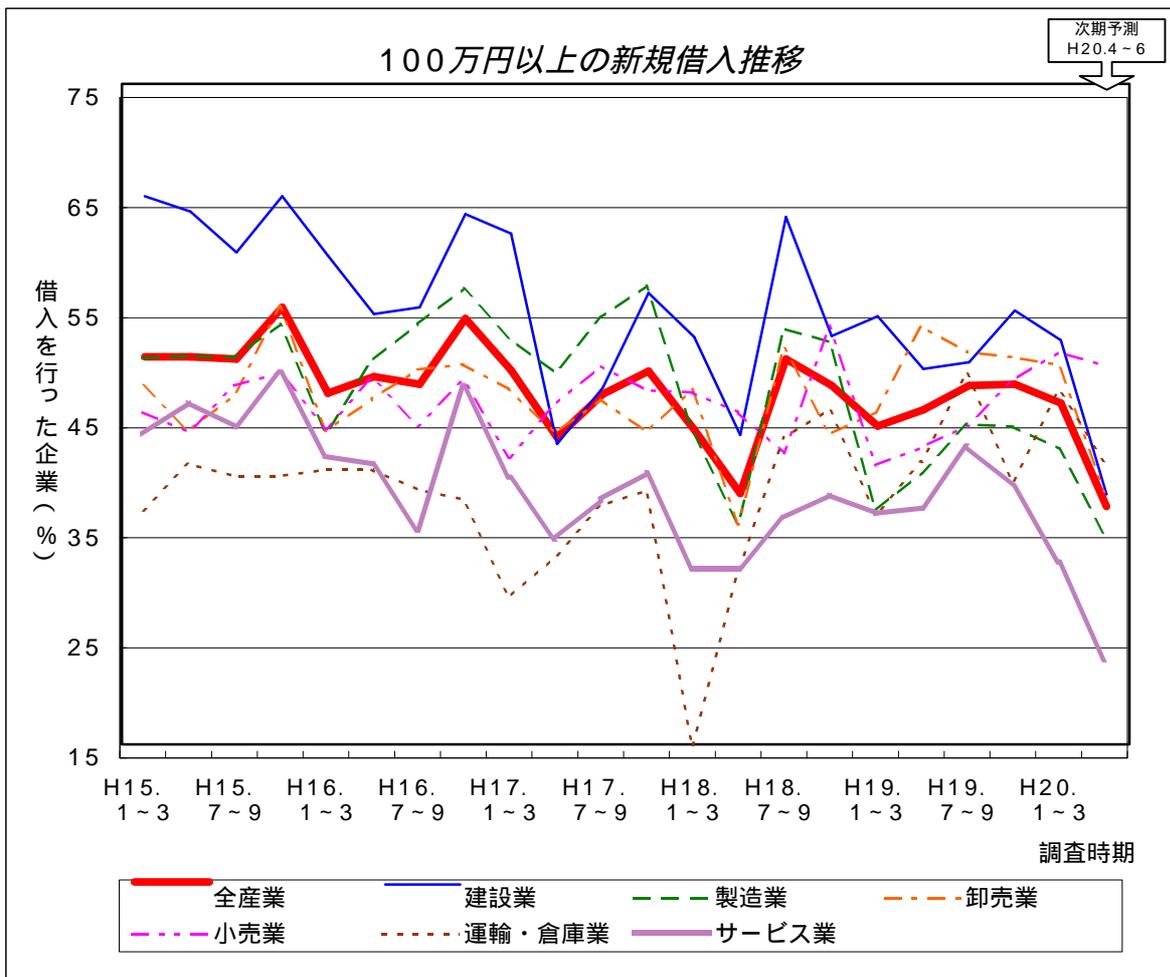
資金用途については、「運転」74.1%、「運転・設備」13.5%、「設備」7.4%という内訳になっている。

次四半期については、「行う予定」とする企業は36.6%、「行わない」とする企業は56.0%となっている。

《100万円以上の新規借入》

(単位 %)

	今四半期 (20年 1~ 3月期) 実績			次四半期 (20年 4~ 6月期) 予測		
	行った	行っていない	無回答	行う予定	行わない	無回答
全業種	46.0	51.8	2.2	36.6	56.0	7.4
建設業	51.7	47.0	1.3	37.7	53.6	8.6
製造業	43.1	53.9	2.9	35.3	57.8	6.9
卸売業	50.7	47.3	2.0	39.2	54.1	6.8
小売業	51.9	44.3	3.8	50.6	41.8	7.6
運輸・倉庫業	48.4	51.6	0.0	41.9	58.1	0.0
サービス業	32.8	64.9	2.2	23.9	67.2	9.0
中小企業	45.4	52.9	1.7	35.3	57.7	7.0
大企業	54.5	36.4	9.1	54.5	31.8	13.6



# 100万円以上の新規借入資金使途

(単位 %)

	今四半期100万円以上の 新規借入の資金使途(実績)				次四半期100万円以上の 新規借入予定の資金使途(予測)			
	運転資金	運転設備	設備資金	無回答	運転資金	運転設備	設備資金	無回答
全業種	74.1	13.5	7.4	5.1	74.6	12.7	8.9	3.8
建設業	89.7	3.8	6.4	0.0	87.7	5.3	5.3	1.8
製造業	65.9	13.6	6.8	13.6	77.8	11.1	2.8	8.3
卸売業	69.3	17.3	8.0	5.3	79.3	12.1	6.9	1.7
小売業	61.0	24.4	9.8	4.9	50.0	25.0	20.0	5.0
運輸・倉庫業	66.7	13.3	13.3	6.7	61.5	15.4	15.4	7.7
サービス業	77.3	13.6	4.5	4.5	75.0	12.5	9.4	3.1
中小企業	75.8	11.4	7.3	5.5	78.8	9.0	8.5	3.8
大企業	54.2	37.5	8.3	0.0	37.5	45.8	12.5	4.2

## 10. 100万円以上の設備投資

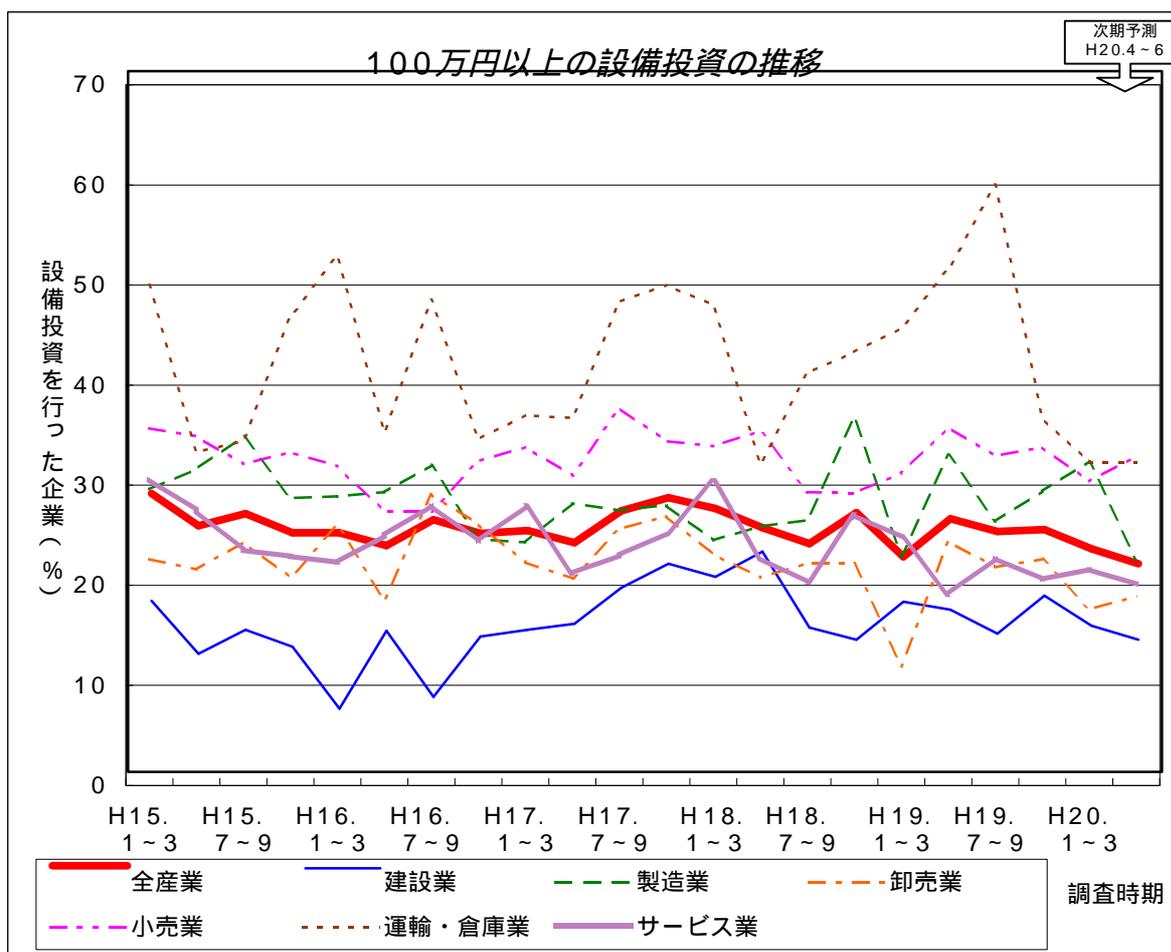
100万円以上の設備投資を「行った」とする企業は22.3%、「行ってない」とする企業は73.3%となっており、その投資内容については、「新規」27.8%、「新規・更新」31.9%、「更新」33.3%という内訳になった。

次期予測については、「行う予定」とする企業は20.8%、「行わない」とする企業は71.0%であり、その投資内容については、「新規」31.3%、「新規・更新」32.1%、「更新」28.4%となっている。

《 100万円以上の設備投資 》

(単位 %)

	今四半期 (20年 1~ 3月期) 実績			次四半期 (20年 4~ 6月期) 予測		
	行った	行ってない	無回答	行う予定	行わない	無回答
全 業 種	22.3	73.3	4.3	20.8	71.0	8.2
建 設 業	14.6	81.5	4.0	13.2	79.5	7.3
製 造 業	32.4	62.7	4.9	22.5	69.6	7.8
卸 売 業	17.6	79.1	3.4	18.9	74.3	6.8
小 売 業	30.4	65.8	3.8	32.9	59.5	7.6
運 輸 ・ 倉 庫 業	32.3	58.1	9.7	32.3	58.1	9.7
サ ー ビ ス 業	21.6	73.9	4.5	20.1	68.7	11.2
中 小 企 業	19.8	76.2	4.0	18.1	73.9	8.0
大 企 業	56.8	34.1	9.1	56.8	31.8	11.4



## 100万円以上の設備投資

(単位 %)

	今四半期 100万円以上の 設備投資の資金使途(実績)				次四半期 100万円以上の 設備投資計画の資金使途(予測)			
	新規	新規、更新	更新	無回答	新規	新規、更新	更新	無回答
全業種	27.8	31.9	33.3	6.9	31.3	32.1	28.4	8.2
建設業	27.3	22.7	50.0	0.0	30.0	25.0	30.0	15.0
製造業	30.3	36.4	27.3	6.1	26.1	26.1	43.5	4.3
卸売業	23.1	42.3	30.8	3.8	32.1	32.1	32.1	3.6
小売業	20.8	41.7	25.0	12.5	30.8	46.2	19.2	3.8
運輸・倉庫業	30.0	20.0	30.0	20.0	30.0	10.0	50.0	10.0
サービス業	34.5	20.7	37.9	6.9	37.0	37.0	11.1	14.8
中小企業	31.1	28.6	32.8	7.6	33.9	25.7	30.3	10.1
大企業	12.0	48.0	36.0	4.0	20.0	60.0	20.0	0.0

## 11. 当面の経営上の問題点

当面の経営上の問題点としては、「売上高、生産額、工事高の伸び悩み」53.5%、「受注、販売競争の激化」51.8%、「営業利益の低下」46.7%、「原材料高、入手難」36.7%、「販売価格への転嫁難」30.4%の5項目を指摘する傾向が続いており、全業種ともほぼ5項目に集中している。

他に指摘が集中した項目として、建設業の「官公需要の停滞」45.7%。運輸・倉庫業の「人材難、求人難、定着性の悪化」45.2%、「経費の増加」41.9%。サービス業の「人材難、求人難、定着性の悪化」31.3%が挙げられ、いずれも3割を越す指摘となっている。

《当面の経営上の問題点(複数回答可)》

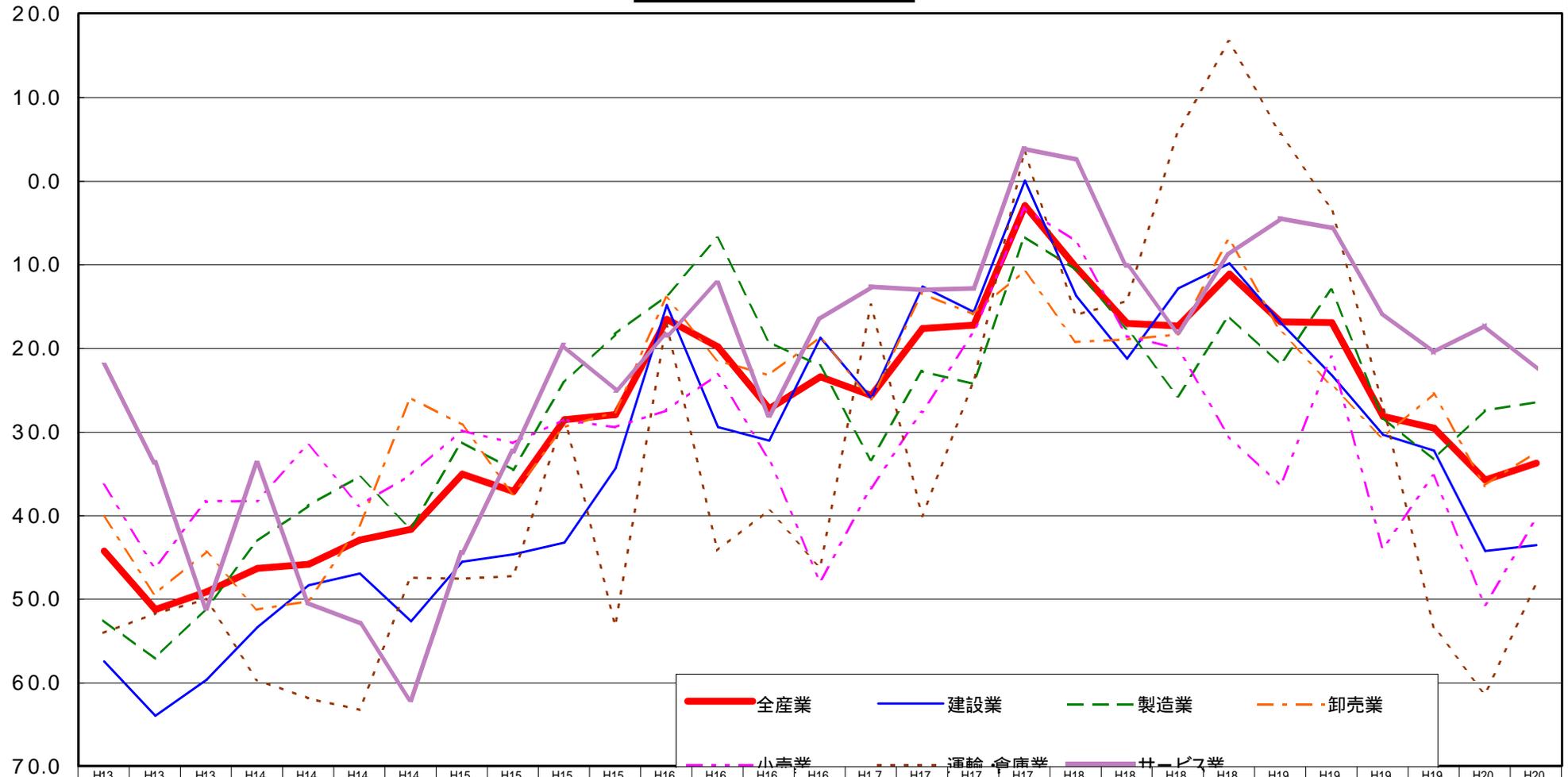
(単位 %)

問題点	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
	の受注激化、販売競争	び額売、上額、高の産伸	出店、業者、大型、店の進	同業者、類似の停滞	官公需要の停滞	輸出不振	元請の減少	低操下業率、稼働率	難原材高、入手	の出荷下、納品価格	過剰在庫	嫁販売価格への転	増難販、代金の回収
全業種	51.8	53.5	11.2	20.6	0.8	7.1	5.3	36.7	9.8	3.7	30.4	5.7	5.9
建設業	64.2	62.9	8.6	45.7	0.0	20.5	2.0	47.0	7.3	0.7	19.2	2.6	4.0
製造業	44.1	58.8	5.9	13.7	2.0	2.9	11.8	61.8	15.7	2.9	42.2	4.9	4.9
卸売業	52.7	50.7	12.2	14.9	2.0	1.4	4.7	33.1	12.8	10.1	43.2	14.2	12.2
小売業	50.6	49.4	17.7	5.1	0.0	0.0	0.0	19.0	5.1	5.1	27.8	3.8	2.5
運輸・倉庫業	22.6	35.5	12.9	9.7	0.0	0.0	19.4	32.3	9.7	0.0	35.5	6.5	3.2
サービス業	50.0	48.5	12.7	15.7	0.0	7.5	4.5	21.6	7.5	0.7	20.1	1.5	4.5
中小企業	52.1	53.1	10.8	21.0	0.5	7.7	5.7	37.4	10.1	3.5	30.8	5.8	5.8
大企業	47.7	59.1	15.9	15.9	4.5	0.0	0.0	27.3	4.5	6.8	25.0	4.5	6.8

問題点	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26
	経費の増加	営業利益の低下	不隘店、舗、駐工場用地狭	代剩店、舗、老朽設備、近	が家賃地代の値上	化難人、材定着、性求の悪	費人手過剩、人件	対労務管理、組合	資金借入難	金利負担増加	難情報不足、人材	その他	無回答
全業種	26.8	46.7	0.9	3.6	1.2	19.5	4.8	3.3	7.3	10.1	5.1	2.5	1.6
建設業	23.2	55.0	0.0	2.0	0.0	15.9	6.6	1.3	7.3	10.6	2.6	2.6	0.7
製造業	21.6	41.2	1.0	3.9	0.0	12.7	2.0	1.0	4.9	6.9	3.9	2.0	3.9
卸売業	29.1	40.5	1.4	3.4	2.0	14.2	0.7	2.0	6.1	13.5	6.1	2.0	1.4
小売業	25.3	46.8	2.5	0.0	3.8	15.2	2.5	3.8	8.9	11.4	2.5	1.3	1.3
運輸・倉庫業	41.9	51.6	0.0	9.7	0.0	45.2	3.2	9.7	6.5	12.9	6.5	9.7	3.2
サービス業	29.9	47.0	0.7	6.0	1.5	31.3	11.2	6.7	9.7	6.7	9.0	2.2	0.7
中小企業	26.5	47.4	1.0	3.8	1.3	18.3	4.7	3.0	7.8	10.3	5.5	2.7	1.5
大企業	31.8	36.4	0.0	0.0	0.0	36.4	6.8	6.8	0.0	6.8	0.0	0.0	2.3



# 自社業況DI値の推移



	H13.4~6	H13.7~9	H13.10~12	H14.1~3	H14.4~6	H14.7~9	H14.10~12	H15.1~3	H15.4~6	H15.7~9	H15.10~12	H16.1~3	H16.4~6	H16.7~9	H16.10~12	H17.1~3	H17.4~6	H17.7~9	H17.10~12	H18.1~3	H18.4~6	H18.7~9	H18.10~12	H19.1~3	H19.4~6	H19.7~9	H19.10~12	H20.1~3	H20.4~6
全産業	44.3	51.3	49.2	46.4	45.9	43.0	41.7	35.1	37.2	28.6	28.0	16.6	19.9	27.3	23.5	25.7	17.7	17.3	3.0	10.4	17.1	17.4	11.2	16.9	17.0	28.2	29.6	35.8	33.8
建設業	57.5	64.0	59.7	53.4	48.4	47.0	52.7	45.6	44.7	43.3	34.4	14.9	29.5	31.1	18.8	26.0	12.7	15.7	0.0	13.8	21.3	12.9	9.9	17.0	23.3	30.4	32.3	44.3	43.6
製造業	52.5	57.1	51.1	43.1	38.8	35.3	41.5	31.2	34.5	24.1	18.3	13.7	6.8	19.2	22.0	33.3	22.7	24.2	6.6	10.6	17.6	25.7	16.1	21.9	13.0	28.2	33.3	27.4	26.4
卸売業	40.1	49.4	44.3	51.2	50.2	41.2	25.9	29.1	37.4	29.4	27.6	13.9	21.4	23.2	18.7	26.1	13.4	15.9	10.7	19.2	18.9	18.3	6.9	17.9	24.4	30.7	25.4	36.4	32.4
小売業	36.3	46.2	38.3	38.2	31.5	38.8	35.1	29.8	31.3	28.5	29.4	27.4	23.1	33.2	47.9	36.7	27.6	18.2	3.2	7.2	18.5	20.0	30.5	36.4	21.0	43.9	35.2	50.7	40.5
運輸・倉庫業	54.0	51.7	50.0	59.6	61.8	63.2	47.4	47.5	47.2	28.1	53.1	17.1	44.2	39.3	46.2	14.8	40.0	24.1	3.6	16.0	14.3	5.9	16.7	5.7	3.2	26.7	53.3	61.3	48.3
サービス業	22.0	33.6	51.1	33.7	50.4	52.9	62.0	44.4	32.3	19.6	25.0	18.4	12.2	28.0	16.5	12.6	13.0	12.8	3.9	2.6	10.1	18.0	8.8	4.4	5.6	15.7	20.5	17.2	22.4